【テーマ】　男女共同参画に関する人権

【発行月】　H30.5

大相撲 土俵の「女人禁制」
あなたはどう感じましたか？

　4月4日に京都市舞鶴市で行われた大相撲春巡業で、土俵上であいさつをしていた市長が倒れた際、土俵に上がり救命処置を施した女性に対し「女性は土俵から降りてください」と場内アナウンスで促されたことが問題となり、多くのメディアで報道されました。
日本相撲協会の八角理事長は、「人命にかかわる状況では不適切な対応でした。深くおわび申し上げます」とコメントを出しました。

土俵に上げない「伝統」

　大相撲は、土俵入りのかしわ手、清めの塩まきなど、神事と密接なかかわりがあるとされ、女性を土俵に上げないことが「伝統」とされています。
　以前にも、女性初の官房長官となった森山真弓氏が首相の名代として優勝力士に対し内閣総理大臣杯の授与について申し出ましたが、土俵に上がっての授与は遠慮してほしいと断られることがあり、物議をかもしたことがありました。
　もちろん「伝統」を重んじ、大切に守っていくことは必要ですが、今回のように、人命より優先する「伝統」であってはなりません。

ふと立ち止まって

　私たちの日常生活に目を移すと、時代や現状に合わなくなった「伝統」や「しきたり」などがあるかもしれません。また、それらを変えることは、継続させていくことよりも困難だったり、勇気や努力が必要な場合があります。
　ふと立ち止まって、今まで当たり前だと考えていたことや、行っていたことが、誤った固定観念や偏見に基づいていないか、それぞれが生活しながら、都度ふり返ってみることが大切です。